

長良川の鵜飼、川原町界限

vocalist 戸坂 純子



戸坂 純子

junjunta@qj8.so-net.ne.jp  
http://www.junko-tosaka.com/

私は、母の影響で幼稚園の頃からピアノを弾いておりました。音楽好きが高じ、フェリス女学院音楽学部ピアノ専攻に進学し、アルバイトでピアニストとして活動をはじめたことが、ジャズ・歌との出会いになりました。現在は、FM新潟で音楽番組のパーソナリティーもさせて頂いております。今年は、2枚目のCD発売の予定もあります。

私のライブでお知り合いになった方に「三木会」にお誘い頂き、またそこでも新たな出会いがあったからです。ライブ活動は、都内は勿論ですが、大阪、神戸でも年数回、定期的に開催しております。

岐阜は新幹線で常に通過するだけの駅でしたが、知人の薦めもあり、山紫水明の地「岐阜」へ足を踏み入れる事になり、運良く一昨年の夏、「長良川の鵜飼」を見る幸運に恵ま

れました。

丁度お盆のころで、昼間の岐阜の暑さには少し驚くものがありました。6時過ぎに屋形船に乗船し川面をすべるように上流に上りはじめると、西に沈む夕焼けと金華山のコントラスト、長良川で冷やされた人肌によさしい爽快な風を感じ、しばし薪能の情景を思い浮かべる瞬間がありました。薪をくべ、能役者が舞を舞い、囃子・謡方が囃される幻想的な情景が見事にマッチする風景と思いました。後で聞きましたが、今夏も長良川河畔で薪能が催されるとのことでした。

鵜船に鵜匠が乗り、11羽の鵜を見事な手縄さばきで操り、鵜が次々に鮎を捕り鵜呑みにした鮎をはかせ、また川に入れ船ペリをたたき、鵜を追い、クライマックスを迎えると、船は旋回し下って行きました。最後に、鵜の歯型が付いた大漁の鮎を見せていただきました。

松尾芭蕉も同じ心境か「おもしろうて やがてかなしき 鵜舟かな」という有名な一句を思い出しましたが、鵜飼は単なる漁法ではなく、これこそ「岐阜に育まれた千年来の文化」だと感じました。

岐阜の地は、織部焼・志野焼にも代表される「侘び、寂びの世界」の発祥の地(?)でもあり、中世武士世界の波乱の戦いの歴史や江戸時代に移る政治文化の中心であったことを感じつつお酒の勢いも手伝い、深い夢の世界に入りました。

一夜明け、格子戸の川原町界限から岐阜公園ロープウェイで岐阜城を散策しました。商家屋敷が色濃く残っているのかと思いましたが、実は商家の格子戸が並び嬉しくなりました。岐阜城は、尾張美濃の織田信長に象徴される中世武士世界の礎を築いた斎藤道三の居城と聞き大変興味を持ち、菩提寺の常在寺にも立ち寄り、お参りさせていただきました。

今年のNHK大河ドラマは、「天山人」であり、私が住む越後の英雄上杉謙信の家臣である直江兼続の物語のことです。

何かこの時代を通して岐阜、新潟両県が深く結ばれているような気持ちが出てきました。

濃尾平野の北端に位置し、山と水に恵まれ、文化や交通の往来の中心となる岐阜の地は私にひと時の潤いを与えてくれました。